



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92.9.2 No.3650

「会社が決めたことは黙って従え」という 精神主義的 考え方を改めよ!

申28号(夏季手当カット)で

団体交渉を行う(8月26日)

乗務員に受け入れられないこと
(あごヒモ等)を強要した会社側
を追え!

八月二十六日、動労千葉は、九二年夏季手当の支払いに伴う減額(カット)についてその根拠を求めた団体交渉を行った。

「乗務員への締め付けで
なんら合理性なし」

席上、千葉支社は、カットの理由として①指針の唱和、②あごヒモをかけない、③カーテンの開放、④道路を脱帽で歩いていた、等に対する指導を行った事をあげてきた。

これらの理由は、全く意味のない精神主義による乗務員への締め付けを目的にしたものであり、なんら合理性のないものである。

動力車乗務員の点呼において重要なことは、安全確保に必要な事項の確認である。運転関係に従事する者にとっては、「指針の唱和」よりも「安全綱領」を重視しなければならぬのである。

しかしながら、現場管理者に「安全綱領」を知っているか」と聞いても、首をひねるだけで殆ど知らないという状況でも明らかかなように、会社が決めたものは問題があっても黙って従えという乗務

とについても、八月一日から試行ながら「省略してもよい」となったら全乗務員が一斉にかけなくなつたことでも明らかとなり、「全ての乗務員に受け入れられない」ようなことを今まで強要してきたことにこそ問題があり、会社はこの実態を真しに受けとめ、現場の声に耳を傾けるべきである。

この「あごヒモ」について会社側は、「この間の交渉でも「間違っていたいなかった」と聞き直り、正当化してきた。問題があるものでも「会社が決めたことには黙って従え」という強権的労務政策を改めないかぎり、労使の信頼関係はもとより、安全の確保もおぼつかなくなるのではないだろうか。

動労千葉は、これからも職場生産点の闘いに依拠し、会社側を追及してゆくものである。

「会社は現場の声に
耳を傾けるべきだ」

また、「あごヒモ」をかけるこ

青年部 第15回定期委員会へ

次代の動労千葉
をしようとして立つ
青年部運動を
つくるろう!

ところ 国民宿舎・一宮荘

9月5日 13時から
6日

青年部は、来る九月五日から六日、国民宿舎「一宮荘」において第十五回定期委員会を開催する。

今定期委員会をかちとるべき課題は、PKOやJRをめぐる情勢をキチッと確認して、二度と侵略と戦争の歴史を繰り返さない、反

戦闘争を闘う労働運動の巨大な流れをつくりだす、清算事業団闘争をはじめ国鉄決戦に勝利する。そのためには足腰を鍛え、足元を固めて青年部が闘いの先頭に立ち、次代の動労千葉を本当にしようとして青年部運動をつくるために

頑張ることを全員で確認することである。

定期委員会に総結集し、みんなの力で元氣一杯闘う方針と戦闘的役員体制を確立しよう!

青年部は団結してガンバロー!

当三面する行動
九月三日(木) 十時
九〇・三スト支配介入事件 千葉地労委
四日(金) 十時一五分
清算事業団本務 配属差別事件 千葉地労委
一四日(月) 一八時三〇分
九・一四反弾圧集会 東京・檜町公園
十月三日(土) 一四日(日)
動労千葉第一九回定期大会 野栄町・のさか望洋荘